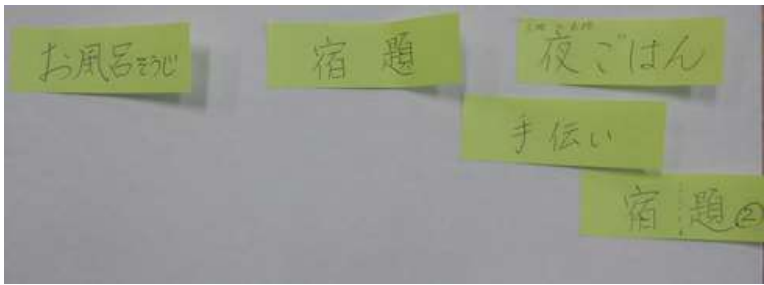


## 教材・支援機器活用実践事例

### 【計画を立てること、時間管理が苦手な児童への支援】

	実施年度	平成 26 年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	こんなときどうする？	
	授業における教師のねらい	○生活しやすい時間の使い方を考えて、実行できる力を養う。 ○優先順位を考え、状況に応じて調整する力を養う。	
	授業における子どもの目標	○困っている点に気づき、状況を改善しようとすることができる。 ○下校後、どういう順番で過ごす和生活しやすいか考えて決めることができる。	
子どもについて	学校・学級・学年	小学校・通級による指導（ADHD 通級指導教室）・高学年	
	対象の障がい	ADHD	
	授業形態	個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	対象児童は実行機能に弱さが顕著に見られる児童である。時間割がはっきり決められている学校生活のような場面では困り感は少ないが、自宅での生活場面では、時間の使い方が適切にできず、時間が過ぎてしまってから混乱することが多い。まずは、生活の中で一番困っている下校後の時間の使い方を考えて、実行できるようにすることを目標とし、うまくいったところいかなかったところの調整の仕方も含めて、成功体験を積み重ねることで、他の場面でも応用することができるようにする必要がある。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	実行機能を育てる教材「付箋紙」の活用	【画像】 
	活用のねらい	本児は聴覚的な処理においては、多くのことを想起し、ポイントを絞った思考が難しい。視覚的な処理においては、絵がなくても文字で理解ができる。 本児にとって大切なことは、下校後の時間の使い方であり、何を優先的にやるか、どの時間までに行うか順番を明確にすることである。 このことから、下校後に実施することを付箋紙1枚に1項目ずつ書き出し、どの項目から行うことで、生活の困り感を軽減することができるかについて付箋（実施項目）を並べ替えながら話し合い、1つのモデルを作成する。これを活用して実践し、実践をもとに数回にわたって検討することで、より現実的で実行可能であり、かつ困り感が少ないものに調整していく。	
授業における支援 ・教材の配慮事項	○本児が困っている場面から課題を設定する。 ○本児の知的水準等をふまえてアセスメントをした上で使用する。 ○児童から状況をよく聞き、項目を的確に抽出する。 ○項目を書いた付箋を実際に時系列で動かしながら話し合うことで、順番のイメージをはっきり持たせる。 ○実際の場面を経て、複数回検討し、調整する。		
子どもの変容や評価	本児の中に、最初に何をやって、それが終わったら何をやるという順番のイメージができた。数回繰り返すことで、順番は調整可能であり、それによって、生活の困り感が順次軽減していくことを実感することができた。		

